

PLuS+2009

…お祭りのあと

PLuS+2009も無事終了しました。皆さん、ご来場ありがとうございました！ 扇町公園で開かれる年に一度のお祭りも、今年で6回目。皆さんのご協力のおかげでここまでことができました。PLuS+のテーマはエイズ。特に「エイズの予防啓発」「すでにHIVを持って、この街と一緒に暮らしている人々への支援と共生」「コミュニティの活性化」を目的として開催しています。お祭りはお祭りだけ、ただのお祭りじゃないPLuS+。お祭りのあとには、何が広がっているのかSaL+編集部がダイスケが二人の方に話を伺いました。



>>>TEACH

気になるけど、誰に聞いたらいいのかわからない。知りたいけど、どうやって調べたらいいのかわからない。そんなみんなの疑問に、経験豊富な兄貴(時にはアネキ)が答えるコーナー。



堂山・ミナミ・新世界のバーで配っているアンケートって何なん??

11月6日より、今年もバーアンケートが実施されます。アンケートを見てみると、「ハッテン場って、行く?」「掲示板とか使う?」とか、「セックスって、どうして?」とか「エイズについて友達と話したことある?」みたいな質問が並んでいます。これって、誰かのためにやっているアンケートで、どんなことに使われるのか、市川 誠一先生(名古屋市立大学看護学部教授/厚労省エイズ対策研究事業 研究代表者)に聞いてみました!

Q: バーアンケートって、ボクたちに答えてほしいアンケートなんですか?

バーアンケートは、これまでMASH大阪との共同で2005年と2007年の2回を実施してきました。約50問のアンケートでセックスやエイズのことについてお聞きしています。これまでに、のべ1600人の方のご協力を得ることができました。海外でも同じような質問数のアンケートが実施され、その結果に基づいて、ゲイ・バイセクシュアル男性にとってよりよい環境を築くようなプログラムが実施されています。でも、日本ではこのバーアンケートのように、コミュニティの多くの方にご協力いただいているものはほとんどありません。こんなに多くの方に協力いただけることはとても意義のあることだと思っています。

Q: ボクたちのことを、そんなにたくさん聞くのはどうして?

アンケートではセックスやエイズのことについて、

そもそも「エイズの予防啓発」って「 condomの配布」や「検査の促進」ってイメージが強いけど、なんで「イベント」なんだろう? 社会学が専門の山田先生に、そこそこ聞いてみました。

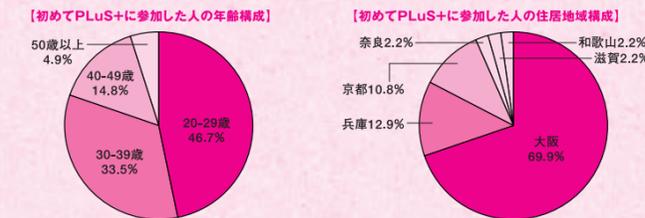
山田: エイズの予防啓発っていつまで condom が思い浮かびますよね。確かに condom の使用は大切です。でも condom が手元にならない、いろいろな理由で使にくい人もいます。理由は様々ですが「自分から condom を使おうと言えない」「エイズを話題にしにくい」といった、ゲイコミュニティに流れる「空気」が理由になっていることも少なくありません。しかし大阪でもHIVを持っている人が増加傾向にある現実を見つめた時、コミュニティに流れる空気も変わっていく可能性があります。HIV/エイズがゲイコミュニティの人にとって、とても大切な事柄であること。だからこそ、みんなでそのことを考え、話し、「空気」を変えていく必要があります。

ダイスケ: なるほど! PLuS+では青空の下で普通にエイズの話ができるし、それってHIV/エイズに対する「空気」が少しずつ変わるきっかけになるのかも。

山田: PLuS+はそこに来る人々を勇気づけ、一緒にHIV/エイズと向き合い、コミュニティの未来を考えるイベントです。たくさんの人々が集まる、明るく楽しいイベントには、そこに流れる「空気」を変え、文化を変えてゆく力があります。実際にPLuS+をやることでコミュニティの雰囲気や文化がどのように変わるのか、調査も実施しています。

ダイスケ: あの会場でやっているアンケートのことですね!

山田: そうです。会場のアンケート以外にも、バーやクラブで実施しているアンケート調査でもPLuS+の効果を検証しています。詳しくは、分析調査を担当している名古屋市立大学の塩野さんに聞いてみましょう。



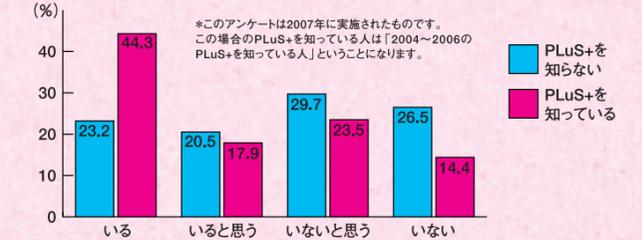
ダイスケ: これまでにPLuS+の効果ってどんなふうに検証されているんですか?

塩野: 例えば去年のデータでは、当日会場で行われたアンケート(有効回答数630人)によって約6,000人(推定)が参加したことがわかっています。そのうち約6割(n=385人)がゲイ・バイセクシュアル男性でした。大阪府在住の人が約7割を占めますが、兵庫県や京都府の人でも1割くらい参加しています。また年齢層では20代・30代が中心ですが、幅広い年齢層の方に参加していただいていることがわかっています。(↑円グラフ参照)

次に、ゲイコミュニティにとってPLuS+がどんな意味を持つのか、2007年にバーで実施したアンケート結果を見てみましょう。回を重ねるにつれ参加者を得るようになってきたPLuS+ですが、PLuS+を知っている人と、知らない人では何が違うか? 2007年のバーアンケート(有効回答897人)の結果からPLuS+を知らない人に比べてPLuS+を知っている人のほうが、身近にHIVを持っている人が「いる」と回答している割合が明らかに高いことがわかりました。(↑グラフ参照)

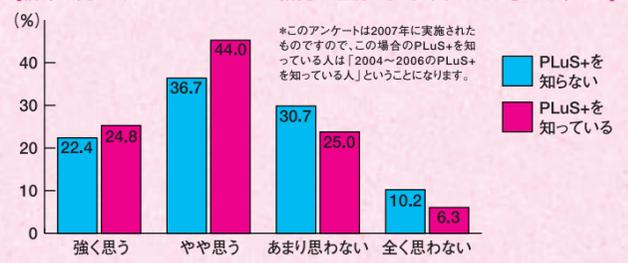
ダイスケ: それはつまり、エイズについて話すことが出来る「空気」が関係しているってことですか?

【知人・友達にHIVを持っている人がいるか?】



塩野: その可能性が高いですね。また、「去年に比べて、HIV/エイズへの偏見や差別が少なくなったと思いますか?」という質問についても、PLuS+を知っている人のほうが「そう思う/ややそう思う」と回答している割合が高いことがわかりました(次のページの棒グラフ参照)。このように、PLuS+というお祭りの3つのテーマは、参加した街のみなさんによって、コミュニティの中に浸透しているものと思われまます。今年のアンケートの詳細な結果は、たまたま分析中ですので、もうしばらくお待ちください。

【前年に比べて、HIV/エイズへの偏見や差別が少なくなったと思いますか?】



ダイスケ: なるほど! 二人の話をPLuS+がただのお祭りじゃないってことが少しだけわかりました。ありがとうございました!!

PLuS+2009 来場者人数 速報値

約11,500人(のべ人数)

実質来場者数推定値は、約半分くらいと思われます。詳しい数値は近日中にwebなどでお知らせします!!



PLuS+報告パンフレットは、11月中旬に配布予定! パンフレットを見ながら今年のPLuS+を思い出してみてください。

>>>EAT

堂山やミナミから歩ける範囲にある オモロイところ、オイシイお店を訪ねるコーナー マリキータ・オニツカ 夜のグルメ世界紀行

バリ島から帰って、早速京橋リベンジツアー(79号参照)に行っちゃいました。といっても、なりゆきで、いきなりスペイン・バルではなく、超有名店のくらげ屋>>にお邪魔することにしました。なりゆきって恐ろしいものですね……さてそのくらげ屋>>、京阪国道から東北方向に伸びるアーケード街「びぎん京橋」をひたすら歩いて、アーケードがなくなってもひたすら歩くと右手に現れるのがわずか3坪くらいの、なんていえないのかしら。民家にへばりついたような居酒屋スペースで鳥焼いてますみたいな、なんとも場末感溢れるお店。お愛想なしなんですけど、トリ(鶏)、うずら、ホロホロ鳥、鳩などいろいろの生や焼いたのをガッツリ喰いたいってときには何はさておいても駆付けたいって思わせるお店ですネ。つくねと赤ワインの組み合わせなんて閉店モだったワ、なーんてことブツブツいいながら京橋駅に戻る途中、例のリベンジのこと思い出して、「シェリーでもひっかけようか?」ってノリで京橋中央商店街のはずれにあるクリンコン・カタルーニヤ>>にお邪魔しました。「カタルーニヤの片隅」にはくらげ屋>>という花屋さんが併設されていて、なんだか素直な雰囲気。お料理はまだ今度ですけれど、今度行ったら片隅にお花を買って終電に飛び乗ろう!! やっぱリベンジってするもんよネーへへへんてひとりで盛り上がりっぱなし。



>>>TOPIC

知っとこ! Sexual Health Information セックスライフと健康をめぐるホットな情報

今回のテーマは 第9回アジア・太平洋地域エイズ国際会議報告 その2

同性間のセックスを法律で現在は禁止している: インド、パキスタン、ネパール、マレーシア、シンガポール、ミャンマー、イランなど 最近まで禁止されていた: 香港、中国 禁止する法律がもともとない: タイ、カンボジア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、韓国、台湾、日本など

という状況でした。禁止する法律(俗に「ソドミー法」と呼ばれ、基本的には同性間のセックスというよりアナルセックスを禁じたもの。中世の教会法に起源をもつ)は、かつてイギリスの植民地だった時代に制定されたものがそのまま残った、いわば英国植民地主義の「置き土産」。かつてオーストラリアを断罪した法律がアジアの国々で生き延びていることになりました。 今回の脱法化の動きはインドで始まりました。北部のラクナウという都市で2001年、condom配布などのエイズ予防活動を行っていたボランティア数名が「アナルセックスを手助けする行為を行った」かどで警察に逮捕された事件が起きました。これに対しインド有数のエイズ関連NPOであるNaz Foundationが粘り強い抗議運動・裁判闘争を展開し、つい今年の7月、テリ高裁から「アナルセックスを違法とする法律は違憲である」との判決を引き出したのです。このときの判決文が、マイノリティの尊厳を謳いあげた素晴らしいものであったため、判決文が読み上げられた際、感激のあまり泣き出す人が続出したと伝えられています(「タイム」誌より)。

>>>LIFE

ポジ・ネクスト・ドア

“HIV陽性者”といっても、感染が判明したときの気持ちや状況は様々で、日々感じていることや思うことも千差万別。 単にひとくくりには出来ないそれぞれの“ポジティブライフ”をアンケート形式でお届けします。

○ハンドルネーム→かずし

Q.(HIVの感染がわかる前から)今まで男性とセックスをしてきた中でのどのような想を抱えてきましたか? A.ゲイということと、ずっとカミングアウトしないで来ているので、男とSEXをする時は隠していた自分を解放できていたと思う。

Q.HIV陽性者を取り巻く社会状況を、あなた自身はどのように捉えていますか? A.現在の日本では、治療などの面で恵まれていると感じるけど、自分がHIV陽性者だということは、よほど信頼できる人間や知識がある人じゃないと打ち明けれないかな。それは、予防しようと言われる中、それが出来ないダメな人間と思われたり、職場では、感染前と変わらず仕事を出来るのに誤解や偏見があると、仕事も出来なくなりそうだから。

Q.告知以前と告知から3年以上が経過し、変わったと思うことは? A.感染が判ってから3年経つけど、最初は全て変わったんじゃないかと思ったけど、実際は、授業生活と通院生活が始まっただけかな。そう簡単に思えるのは、最初は副作用があったけど、今は落ち着いてうまくいっているからだけ。あと、同じ陽性者の友達が出来て意外と交流が広がったかな。

Q.また今後、どのような社会になることが望ましいですか? A.今のところ完治はできない病気だから将来的に

www.follow-web.com info@follow-web.com

>>>HUMAN

今月の「顔」 vol.29 うどん

毎月表紙を華やかに飾ってくれる カバーボーイくんの人間像を ちょっとだけお見せするコーナー



——趣味はなんですか? 写真撮影とDJです。写真撮影は人物写真がほとんどです。みんなと過ごした時間を絵として残して置きたい気持ちも強くて。カメラ自体はもう長く触っているのですが、今年の頭に一眼を買ったので、それからよく持ち歩いて撮るようになっています。DJは基本J-POPで、ちょこちょこ呼ばれたり、イベントしたりして。 ——好きなタイプは? 体型は太めな人が好きですね。年齢は特に気にしていません。あと背が低い人に目がよくいきますw ——セーフアセックスについて? ケツを基本的にやんないの、ゴム付たりする様な事をしないでですね。でも例えばセックスする直前に歯を磨くとかはダメらしいのでリステリンとかでキレイにするとかですかね。 ——撮影はどうでしたか? 帰りに寄ったトンカツ屋がおいしかったなー。

「SaL+」は、MASH大阪が定期的に発行するコミュニティイベントです。SEX and LIFEの頭文字を取って、それに少し付け加えて「+」健康なセックスライフに役に立つ情報や、街の情報を発信していければと思っています。お店やショップで見かけたら、ぜひ手に取って下さいね!!

- 久しぶりに京橋界隈を歩きましたが、なんとなくですが他の街とは一味も二味も違う何かを感じてしまいます。大きなターミナルだけれど、住んで人もたくさんいて、きっと沿線に住む人たちが街に溢れている……ゲイタウンから遠いのがちょっとばかり残念!
- PLuS+2009無事に終了しました!ご来場頂いた方、行けなかった方、PLuS+にご協力下さった関係者様、本当にありがとうございました。PLuS+アフターパンフレットを今回も制作予定です。11月中旬をお楽しみに!!
- アンケートに答えるのって好きですか?アンケートって、みんなの回答を見たり、分析された結果を見るのが楽しいですよ。自分では当たり前だと思っていたことが少数派だったり、その逆だったり、それをもとに会話が生まれることもあるだろうし。というわけでアンケートは周囲の人にもやってもらおうと、結果を見る楽しみも増えますよ!
- 最近仕事が忙しく、あまりに時間が無いので京都と大阪の移動も新幹線を使うことに……。夕間の中、車窓から梅田のビル街を見ていたらニューヨークに見えてきました。ちょっとヤバメかも。

SaL+編集部 戸田貴希 山田創平 後藤大輔
ご意見・ご要望・ご叱咤などがありましたら、FAXまたはEメールにてMASH大阪事務局(1)までお寄せください。
MAASHOGAKA
〒530-0027 大阪市北区堂山町17-5 翼ビル4階
TEL/FAX) 06-6361-9300
office@masn-osaka.com
平成21年度厚生労働省エイズ対策研究事業「男性同性間のHIV感染対策とその介入効果に関する研究」